

# 第 6 2 回 高体連オホーツク支部新人弓道選手権大会

## 兼 第 4 7 回 北北海道高等学校弓道選抜大会オホーツク支部予選会

### 開 催 要 項

- 1 主 催 北海道弓道連盟北部地区
- 2 共 催 北海道高等学校体育連盟オホーツク支部
- 3 後 援 北見地区弓道連盟 北見市弓道会
- 4 主 管 北海道高等学校体育連盟オホーツク支部弓道専門部
- 5 当 番 校 北海道北見柏陽高等学校
- 6 会 場 北見市武道館弓道場（北見市東陵町 27 番地 TEL : 0157-57-3842）
- 7 大会期日 令和 7 年 9 月 1 1 日（木）～ 1 2 日（金） 2 日間
- 8 大会日程
 

9 月 1 1 日（木）	8:00 開場			
	9:00	監督会議（北見市武道館 研修室）		
	10:00	選手集合・開会式・矢渡し		
	10:30	競技開始（女子から始める）		
		① 個人戦 予選 1 立目	女・男とも各 4 射	立射
		② 個人戦 予選 2 立目	女・男とも各 4 射	立射
		③ 団体戦 1 次予選 1 立目	女・男とも各 4 射	立射
	16:10	1 日目終了予定		
9 月 1 2 日（金）				
	8:00	開場		
	8:30	集合		
	9:00	競技開始（女子から始める）		
		① 個人戦 決 勝	女・男とも射詰競射	坐射
		② 団体戦 1 次予選 2 立目	女・男とも各 4 射	立射
		③ 団体戦 2 次予選	女・男も各 4 射	立射
		④ 団体戦 決勝リーグ		坐射
	14:15	競技終了予定・閉会式・表彰式		
	15:05	全日程終了予定		
- 9 競技規則
  - (1) 役 員 各校弓道部顧問、当番校教職員
  - (2) 審 判
    - イ) 審判長 高体連オホーツク支部弓道専門委員 敦賀 和芳
    - ロ) 審判団 各校弓道部顧問
  - (3) 行 射 坐射とする。ただし、個人予選及び団体戦 1 次予選・2 次予選は立射とする。  
原則として全国高等学校体育連盟弓道競技規則、審判部細案、北海道高等学校

弓道大会競技規則、および申し合わせ事項を参考とする。

## 10 競技参加人数

- (1) 個人戦 男女それぞれ1校8名まで出場できる。ただし、8名の中には団体戦出場者を含む。他の個人選手と同様の資格を与える。介添生徒は1名とする。
- (2) 団体戦 男女それぞれ1校3名で1チーム編成とする。補欠は2名とする。ただし、チーム編成は2名であってもチームとして認める。介添生徒は1名とする。

## 11 参加資格

- (1) 北海道高等学校体育連盟オホーツク支部加盟校の生徒であること。
- (2) 「高体連主催大会参加者災害補償制度」に加入した者、または加入の意思のある者。
- (3) 令和7年度の在籍学年が第1学年・第2学年であること。ただし、同一学年での出場は1回限りとする。

## 12 引率責任者及び監督

引率責任者は当該校の教員で、監督は学校長の認めた教職員とする。ただし、監督については種目の特殊性を考慮し、申出により別途協議する。なお、引率責任者と監督が同一者の場合は教員とする。校長から引率を委嘱された「部活動指導員」(学校教育法施行規則第78条の二に示された者)も可とする。

## 13 参加申し込み

- (1) 個人情報について  
大会参加に際して提供される個人情報は、本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的に利用することはありません。
- (2) 申込用紙のメール送信および当日持参もしくは郵送をお願いします。
  - ① **メールアドレス 1403@hokkaido-c.ed.jp (北見柏陽高校・石丸)**  
なお、開催要項・申込用紙は、北見柏陽高校HPからダウンロードして下さい(郵送はしません)。
  - ② **送信するもの**
    - ア 申込用紙(エクセル)
    - イ 職印を押した申込用紙の原本(PDFまたは写真)  
申込用紙をメール送信する際は、申込用紙(エクセル)と職印を押した原本をPDFまたは写真を添付の上一緒に送信してください。なお、メールで送信した内容と職印を押した原本は同じものかどうか確認をしてください。
  - ③ **送付もしくは持参するもの 職印を押した申込用紙の原本**
    - ア 大会当日に持参する場合  
監督会議の時に、当番校へ提出してください。
    - イ 事前に送付する場合  
送付先 〒090-8533 北見市柏陽町567番地  
北海道北見柏陽高等学校 高体連新人弓道大会事務局 宛(担当者:石丸)
  - ④ **申込期日** **メール送信 令和7年8月20日(水) 必着**  
**郵送 令和7年8月27日(水)**

- 14 参加料 出場選手1名(介添えは含みません)につき700円を8月23日(金)までに振り込みにてお願い致します。  
 振込先 銀行名 遠軽信用金庫 東支店(店番号018)  
 口座番号 普通預金 0207798  
 口座名 北見柏陽高等学校 当番校 校長 後藤 禎和(ごとう よしかず)  
 住所は上記、学校電話:0157-24-5107 FAX:0157-24-5163  
 ※お振込みの際、振込名義を「〇〇高校弓道部」と表記してください。(「北海道」は不要)
- 15 立順抽選 8月25日(月)14:30~より、北見柏陽高校会議室において、オホーツク支部弓道専門委員、大会事務局員の立ち会いの下で、厳正に抽選します。  
 抽選後は、参加申込時に使用したメールアドレス宛に、抽選結果を送信して報告します。
- 16 宿 泊 幹旋はいたしませんので、各校で手配してください。
- 17 表 彰 団体戦および個人戦ともに男女第3位まで賞状を授与し、表彰します。
- 18 その他
- (1) 練習会場について  
 9月10日(水)12:00~16:00までとし、各学校に時間を割り振り、北見市武道館弓道場を開放します(各学校1~1.5時間程度)。練習会場は12人立ちです。各高校顧問または引率教員が必ず付き添うようお願いいたします。
- (2) 開会式について  
 プログラムに記載されている通りに早めに整列してください。なお、個人戦予選の立順が早く指示された選手は開会式終了後、ただちに準備を行い点呼場所へ集合してください。
- (3) 本大会に関する問い合わせは、北見柏陽高校 石丸 または 中野 まで。  
 (北見柏陽高校 TEL:0157-24-5107 FAX:0157-24-5163  
 または メールアドレス [1403@hokkaido-c.ed.jp](mailto:1403@hokkaido-c.ed.jp) 石丸雅裕)
- 19 弓道競技
- (1) 種 目 近的競技
- (2) 種 別 女子の部、男子の部
- (3) 種 類 イ、団体戦(3人立ち) ロ、個人戦
- (4) 的 直径36cmの霰的を使用し、射距離は28mとする。
- (5) 支部大会と北北海道大会との関係  
 団体 支部大会の参加校が4校以下の場合には1校、5~8校の場合には2校、9~12校の場合には3校、13~16校の場合には4校、17校~20校の場合には5校、21校以上の場合には6校までが北北海道大会に出場することができる。開催地区は他に男女各1校ずつ参加できるものとする。
- 個人 支部大会の参加校が4校以下の場合には4名、5~8校の場合には6名、9校~12校の場合には8名、13~16校の場合には10名、17~20校の場合には12名、21~24校の場合には14名、25校以上の場合には16名までが、北北海道大会に出場することができる。  
 (個人戦の開催地区枠は平成27年度より廃止)

## (6) 競技方法

### <団体戦>

#### 1次予選

- ・各自四ツ矢1立計12射を1立目といい、更に各自四ツ矢1立計12射を2立目といい、合計24射を行う。
- ・的中数上位6校が2次予選に進むことができる。ただし、下位同中の場合は、同中校すべてを通過とする。
- ・団体戦に出場する選手は原則として3名でチーム編成するが、2名であってもチームとして認める。ただし、1校1チームで男女混合は認めない。
- ・補欠は2名とする。

#### 2次予選

- ・各自四ツ矢1立計12射を行い、1次予選の的中数と合わせ、合計36射の総的中数上位4校が決勝リーグに進むことができる。その際、下位同中校が出た場合は各校1矢ずつの一本競射を行い、上位4校を決定する。

#### 決勝リーグ

- ・組み合わせ抽選を行う。抽選は1次予選・2次予選の総的中数順とし、同中の場合は立順が先のチームからとする。
- ・リーグ戦形式とする。(試合は女子から2試合ずつ行う)
  - イ：女子第1試合、女子第2試合      ロ：男子第1試合、男子第2試合
  - ハ：女子第3試合、女子第4試合      ニ：男子第3試合、男子第4試合
  - ホ：女子第5試合、女子第6試合      ヘ：男子第5試合、男子第6試合
- ・各自四ツ矢1立計12射を行い、対戦校との的中数によって勝敗を決定する。同中の場合は、各校一矢ずつの一本競射を行い、的中数の差が生じるまで続ける。
- ・順位の設定は次のとおりとする。
  - イ. 勝ち点の多いチーム
  - ロ. 勝ち点が同点の場合、リーグ戦の合計的中数による。
  - ハ. ロによっても決しない場合、対戦成績による。
  - ニ. ハによっても決しない場合、予選の合計的中数による。なお、予選の的中数とは、1次予選・2次予選を合わせた合計36射をいい、一本競射は含まない。
  - ホ. ニによっても決しない場合、1人1射の一本競射による。

#### 制限時間

- ・坐射は7分、立射は6分以内とする。(弦切れ、その他の事故が生じても、時間の延長は認めない)
- ・坐射は6分30秒、立射は5分30秒で計時係が「30秒前」の合図を告げる。  
※制限時間の「30秒前」でベルを1度振鈴させ、「制限時間」でベルを2度繰り返して振鈴させる。監督会議および開始式にて監督・選手へ周知する。
- ・制限時間以内に「離れない矢」は無効とする。  
※坐射7分(立射6分)のベルは制限時間となったことを知らせるものなので、振鈴してから「離れた矢」は無効となる。

### <個人戦>

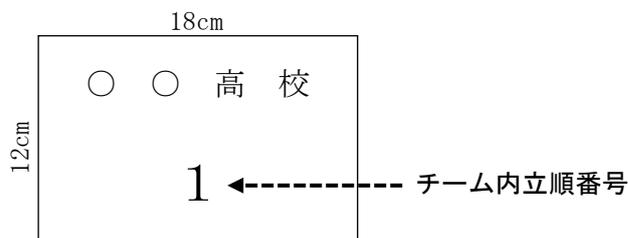
#### 予選

- ・各自四ツ矢2立、8射を行い、男女とも5中以上が予選通過者となり、決勝に進出できる。
- ・予選参加者は、各校団体戦登録者5名と個人戦登録者3名の計8名以内(当番校はこれに加えてさらに8名以内)とする。

## 決 勝

- ・射詰で順位を決定する。
  - ・射詰は9射目より八寸的（小的）にて行う。
  - ・優勝決定及び北北海道大会出場者決定以外の競射は遠近法で順位を決定する。
- (7) 入場と退場
- ・「お支度」または「ご用意」の指示後は直ちに点呼と弓具の点検を受ける。
  - ・「お控え」の指示後は進行係の指示により着席する。
  - ・椅子は第一控えから第三控えまで設置する。
  - ・進行係の「起立」の合図で立ち、「はじめ」の合図で一斉に「揖(ゆう)」をして本座へ進む。
  - ・射場へ入退場する際は、揖をする。射位から退場口に向かう際は必要としない。
- (8) 矢返し
- ・矢返しは四ツ矢が終わるごとに行い、1本ごとの矢返しは認めない。
  - ・各自四ツ矢と損傷の際の替え矢（2本）を準備すること。
- (9) 選手の交替
- ・団体戦のみ認める。補欠は2名までとする。
  - ・補欠登録選手のみ交替させることができる。補欠登録選手は交替する選手の立順に入る。
  - ・選手の交代は5回まで認める。従って、交代した選手の再出場はできる。ただし、点呼場所に入るまでに届け出ること。
  - ・いったん外された選手は補欠となるので、再度交替する時は外される前の立順にこだわらず、どの立順と交替しても良い。
  - ・交替の時期は選手が点呼場所に入るまでとする。ただし、団体戦1次予選1立目の交替は個人予選1立目が始まる前、団体戦1次予選2立目の交替は個人戦決勝が始める前までとする。交替は所定の選手交替用紙に記入の上、監督を通じて競技委員長に届け出る。ただし、決勝リーグ戦進出校決定のための同中競射においては交代を認めない。
- (10) 競技服装
- ・弓道衣・袴・足袋は単色無地とする。ただし、各学校で統一する事。
  - ・弓道衣のアンダーシャツは白・黒・紺の単色無地とし、それ以外の色を使用する場合は各学校で統一すること。襟付き・ハイネックは不可とする。
  - ・弓道衣に校名・校章および各都道府県のシンボルマークを入れる場合は、片方の腕に限る。ただし、大きさは縦横10cm以内にする事。
  - ・鉢巻を使用する場合は、無地で長さは肩までとする。なお、校名・校章・氏名・団体登録番号に限り入れてもよいが、場所は鉢巻の端とする。
  - ・頭髮が弦に当たる恐れがある時は、鉢巻を強制する場合がある。
  - ・胸当は無地とし校名・校章、その他を入れてはならない。
  - ・リボン・ピアスなどの装身具類は着用しないこと。
  - ・ゼッケンを下記の要領で作成し、本部席に見える側の腰につけること。

- イ. 布地は白、学校名は黒、男子選手番号は黒で女子選手番号は赤で記入する。
- ロ. 選手番号は、チーム内の立ち順（1～8）とする。
- ハ. ゼッケンの位置は右図点線の部分とする。
- ニ. 規格および記入例



- (1) 原則として全国高等学校体育連盟弓道競技規則、審判部細案、北海道高等学校弓道大会競技規則、および申し合わせ事項を参考とする。
- (2) 前立ちの者より早く離れた矢は無効とする。また、「30秒前」の合図後における前立ちの者より早く離れた矢も無効とする。
- (3) 参加資格のないものがチームの中にいた場合はそのチームの出場を停止することがある。また、失格とすることもある。
- (4) 選手交替の承認されない者がチームの中にいた場合は、停止または失格とする。
- (5) 定められた「控え席」に選手が着いていない場合は、欠員のまま行射を行う。また、その選手は出場放棄とみなす。
- (6) 矢番え後の筈こぼれ、また矢を落とした矢こぼれの場合は「失」とする。
- (7) 矢は無効とするが、前立ちや後立ちの射手の弓矢が触れ、矢こぼれが生じた場合はやり直しを認めることもある。その場合の前立ちや後の射手の処置については失格とすることもあるが、審判団に判断を委ねる。
- (8) 射場にある場合、選手は私語を慎み、また奇声を発してはならない。また、観覧している者やマネージャー席から声による指示をしてはならない。野次ってはならない。
- (9) 監督は、あたり・はずれの異議の申し立てをすることが出来る。異議の申し立ては矢を抜き取る前にすること。(監督または介添の生徒は監督章・介添章を付け、それ以外の者の異議申し立ては認めない)
- (10) 制限時間には、弦切れのための弦の張り替え時間も含む。従って、弦切れの際は速やかに交換できるようにしておくこと。

### 【注意事項】

- (1) 前後の選手に対して、弓などで教示したり助言したりしないこと。
- (2) 会場内では不必要な声を発しないこと。
- (3) 矢を落とし「失」となった矢は、他の選手の妨げとならないように拾い、自分の体と平行に右前に置くこと。それを進行係が引き取り監督に渡すこと。なお、4射目の場合は選手が持って退場する。
- (4) 競技進行中における行射中止の指示は、的前における赤旗の掲示と射場内では進行係がその指示を行うので、直ちに行射を中止すること。再開指示は赤旗を撤去し、係が指示する。(この間は計時を行わない。)
- (5) 個人戦・団体戦の各予選終了直後、競射がある場合は、会場の放送に注意し、指示後は速やかに四ツ矢を持参して召集場所にて待機していること。
- (6) 同中競射および射詰競射の時は、1矢終わるごとに自分の席に戻る。残りの矢は、自分の席に置いて行射すること。
- (7) 個人競技決勝の射詰・遠近法による競射の退場は進行係に従うこと。
- (8) 団体2次予選において、下位同中校が出た場合、男子・女子の競技が終わり次第、一本競射を行うので、競技進行に注目し、召集に遅れないようにすること。
- (9) 射場内では、執弓の姿勢を保つこと。また、体配を乱さないようにすること。
- (10) 観戦する際は厳粛な態度であること。
- (11) 要項に定められた服装でも、チーム内では統一すること。

## 【監督会議の申し合わせ事項について】

※以下の項目は今後、専門委員と協議し監督会議の議題とし、その席で確認・修正あるいは削除した上で「申し合わせ事項」とする。

- (1) 北北海道大会出場校が辞退しても、次点繰上げは行わない。
- (2) 行射する際に、取り矢は行わなくても良いこととする。
- (3) 弓に故意に照準をつけている場合は、覆わせる。
- (4) 矢のかみ直しは、認めない。
- (5) 取懸け後の矢こぼれは失権とする。取り懸け後とは、矢を番えた後に右手を右腰に添えた時とする。(右手を右腰に添えなかった場合は、坐射では立ち上がり始めた時点＝本弭が床から離れた時点を、立射では本弭が膝から離れた時点を取り懸け後とする。)
- (6) 的に中ってはね返った矢は、的中とする。(ただし、仮設安土道場のみとする。)
- (7) 皆中の拍手、「よし」のかけ声は認める。
- (8) 弦切れの場合の張り替えは原則として顧問・監督が行うが、できない場合は進行係が行うこと。ただし、これによって制限時間が超過することがあっても抗議は認めない。
- (9) 女子のリボン使用は認めない。また、ゴム輪を使用する場合は派手なものを避ける。
- (10) 監督会議等での選手交替は行えるが、立順の変更(例. 1的→3的、3的→1的)は認めない。
- (11) 団体戦において1矢ずつの一本競射の時に、選手交替は認めない。
- (12) 予備矢は持参することが望ましいが、支部大会では強制はしない。ただし、北北海道大会では持参しないと、失格となりうる。
- (13) 当番校の個人戦への出場人数は、8名の他にもう8名までの出場を認め、他の個人選手と同様の資格を与える。ただし、その8名の団体戦への出場は認めない。また、立順は各参加校が終わった一番最後とする。
- (14) ふで粉、ぎり粉などは、射場内や射場内の控で付けないこと。
- (15) 監督が審判などで介添に入れない場合、監督章・介添章を付けた選手が代理として介添に入ることが出来る。よって、弦切れの際の弦の張り替え、的中の異議申し立ても認める。
- (16) 伝統的な押手補助具や傷部保護のための包帯、テーピングを除き押手にはその他の物を付けてはならない。
  - \* 伝統的な押手補助具としては、押手弾(拇指、人差指の2本指と拇指のみの1本指)がある。
  - \* キネシオテープについては、テーピングとみなし使用を認める。
  - \* サポーターの使用は、手首以外の使用について認める。色は白・黒・紺・ベージュの単色無地とする。
  - \* 傷病や障害等のため、包帯やテーピングで手首を固定する必要がある場合は、監督が事前に大会本部へ申し出て使用させること。
  - \* けがで押手に包帯、テーピング等をする場合については、本部に申請して許可を得ること。
- (17) かけ留めの使用は認めない。
- (18) 留学生の参加は認めるが、個人戦のみとし、事前に監督会議で了承を得ることとする。その選手が入賞しても、北北海道大会への参加は認めない。その場合があれば、次点繰り上げで北北海道大会出場選手を決定する。